

中学校での同和問題学習を始めるにあたって

小学校6年生の時に「基本的人権」について学習をしました。この基本的人権が侵されることを人権侵害と言います。

私たちの住む日本にも、様々な「人権侵害」がありますが、その中でも解決されていない重大な問題の一つに「同和問題（部落差別）」があります。

「同和問題」は、日本の歴史過程における身分制度に基づく政策により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的・社会的・文化的に低位の状態におかれ、身分制度のなくなった現代社会においても、結婚や就職、日常生活の上でいろいろな差別を受け続けているという重大な人権問題です。

この同和問題は、日本特有の差別です。私たちは、この問題を一刻も早く解決しなければなりません。そのために、次のようなことを学習します。

学習のめあて

差別されてきた人々が差別と闘いながらも、社会の中で生産や文化の発展に貢献し、懸命に生きてきた歴史を学ぶ。

差別の中で人々はどのような思いや願いをもち、どのように生きてきたのか。差別の解消を目指して取り組んできた人々の生き方に学ぶ。

今日もなお同和問題をはじめとする様々な人権問題が存在する社会において、どのように差別を解消していけばいいのかを学ぶ。

同和問題学習を進めることで、私たちの生活にある今まで気付かなかった、いろいろな差別を見抜く力が付いてきます。

間違った考えを正すことで、あらゆる差別をなくし、みんなが幸せに生きることのできる世の中をつくるために、この学習を進めていきます。

<主な学習内容>

- 1 差別の実態が分かる資料（例：市町や保護者等の意識調査、新聞記事等）を基に、「調査結果から気付いたことや考えたことを発表しよう」
- 2 「明治4年に『解放令』が出されたにも関わらず、現代まで『同和問題（部落差別）』が残っているのはなぜか考えてみよう」
- 3 「『同和問題（部落差別）』を解消するためには、私たちはどのような事ができるかを考えてみよう」

「部落差別」は現在でも私たちの周りにあり、放っておいてもなくなりません。残念ながら、私たちの社会には「同和問題」に関する間違った知識や考えがあります。正しい知識を身に付け、積極的に差別を解消していきましょう。

【指導者用資料】

中学校での同和問題学習を始めるにあたって

教材の見方

人権とは誰もが生まれながらにしてもっている権利で、人が人間らしく生きていくための、誰からも侵されることのない権利である。私たちは、「自分の能力を生かして働き、豊かな生活をしたい」「好きな人と結婚し、幸せな家庭を築きたい」「健康で長生きしたい」など、様々な願いをもっている。そして、私たちは、毎日このような願いを実現できるよう努力している。

しかし、残念ながら私たちのまわりには、様々な差別や人権侵害の事象がある。とりわけ同和問題（部落差別）は、日本社会の歴史的発展の中でつくられてきた身分階層構造に基づき、同和地区に生まれ育ったことを理由に差別される我が国固有の深刻な人権問題である。現在でも結婚や就職、日常生活の上で様々な差別をする人たちがいる。

同和問題の解決を目指す取組は、同和問題だけではなく、社会に存在する様々な人権問題に対する人々の関心や意識を高め、全ての人の人権を保障する取組に大きな成果をあげている。同和問題学習を進めることで、私たちの生活にある今まで気付かなかった、いろいろな差別を「見抜く力」が身に付いてくる。

この学習を通して、人権獲得の歴史に学び、主体的に差別を解消していこうとする意識や態度の育成につなげたい。

指導のねらい

現在も残っている同和問題について考え、主体的に部落差別を解消していこうとする意欲を高め態度を育てる。

同和問題についての学習を深めることが、差別を見抜く力を養い、様々な人権問題の解決につながることを知る。

留意事項

これから取り組む同和問題学習の内容について、理解させるとともに、学習への意欲をもたせる。

意識調査から、現在における差別の現実について気付かせる。

差別が残された原因について、正しく理解させる。

同和問題に対する取組の成果が他の人権問題の解決につながっていることを具体例を挙げておさえる。